

《第 54 号》「これ以上いらない」と思うんです。

後藤 素子(牧野地区東部住民の会)

神奈川県相模原市の最北端、藤野に暮らして 10 年が経とうとしています。山のわき水や井戸水を飲み、ストーブに薪をくべ、炭を焼き、畑を耕し、芸術を愛する人たちに囲まれて、地域活性化の NPO をお手伝いしながら、楽しく豊かな日々を送ってきました。

2011 年の東京電力福島原発の事故には、やはり...と思いましたが、とりあえず自分だけでも大量消費型ライフスタイルから抜け出して満足しようとしていた、我が身の卑怯さに打ちのめされました。幸い価値観を同じくする有志が集まり、福島の子どものための保養活動「しのばらんど」をしていますが、原発再稼働や輸出などの動きを見るにつけ、本質的な解決にはまだまだ...と嘆かずにいられません。

さらには先月、国の認可がおりた「JR 東海のリニア中央新幹線」のトンネルが、地元の山、石砂山の地下を貫くという計画が明らかに。とうとう自分が当事者となって「巨大開発反対」を言うしかない事態になりました。いままで享受していた豊かな地下水、地元住民で保護活動を続けてきた県天然記念物のギフチョウ、その他タゴガエル、シマドジョウ、オオタカ、フクロウなど貴重な生物、そして静かな山里の環境...それらが危機に瀕するのです。勿論、250kmものトンネルですから影響はこの地域に止まりません。

環境影響評価では「影響は最小限」「事後調査を行う」となっていますが、なぜ悪影響が予測されるなら予防・中止しないのか。ギフチョウの本種は一千万年前に生まれたと言われています。リニア中央新幹線は時速 500 キロで走りますが、わずかな移動時間の短縮のために、太古からの貴重な生物を絶滅に追いやることはあってはなりません。

「もっと豊かに・便利に」と、本当に日本の社会は願っているのでしょうか？ 過剰包装がゴミを増やし、また食品添加物で健康被害が生まれるように、安易な願望が、廻り巡って自分たちの首を絞めているのではないのでしょうか。

数年前、近所に携帯電話の基地局が建てられようとしたとき、私たちは電磁波の影響を懸念して「もうこれ以上便利にならなくていい」と建設をやめてもらいました。「もう要りません、これで十分です」という声をあげていかなければいけないと思うのです。

以上